

「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表  
(令和5年第2回審議会)

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況	本文修 正の有 無	素案(第2回審議会(11/14)現在)	記載内容(変更後)
1	第3章1 ライフ ステージに 応じて楽 しむ生涯 スポーツ の推進	(2)子どもの スポーツ機会 の充実	③地域にお ける子ども のスポーツ機会 の充実	主な取組内 容	受入体制をどのように整備していくかというの が大きな課題ですし、やはり指導者の確保とい うところで、学校部活動も苦勞しているところも あります。地域の方に入っていたとしても、 指導者がいないということがあったり、中学生 が活動する時間は、その方も仕事があるので 部活動の時間に指導することができないとい うことがあったりします。このようなことを一体的 に考えていく機会が必要ではないかと思ってい ます。	指導者の質・量の確保については、県として も課題と認識しているところです。県内スポーツ 関係団体等の協力を得ながら、指導者の発掘・ 把握に努め、求めに応じて指導者を紹介する 人材バンクを整備するなど、地域クラブ活動の 運営団体・実施主体による指導者の配置の支 援に向け、今後の参考とさせていただきます。	D(参考)	無		
2	第3章1 ライフ ステージに 応じて楽 しむ生涯 スポーツ の推進	(2)子どもの スポーツ機会 の充実	③地域にお ける子ども のスポーツ機会 の充実	主な取組内 容	先生方も地域の一員ですので、仕事の中で、 部活動となると任意の部分もありますので難し いかもしれませんが、やはり子どもたちの体育 指導に熱い思いを持って、生きがいを持って やっていらっしゃる先生方も多いのではないかな と思いますので、そのような先生方が活躍で きる枠組みというの、ぜひご検討いただけれ ばと思います。	公立学校の教師等が自身の意向により地域 クラブ活動に関わることについては、令和5年1 月に国が出した手引きにより、兼職兼業に必要 な手続きや留意事項等について各市町村教育 委員会にも周知しているところです。また、これ まで県内で実施されたモデル事業においても 教師等の兼職兼業の実績があり、各市町村に 情報提供しています。 今後も、地域クラブ活動での指導を希望する 教師等が円滑に兼職兼業の許可を得られるよ う、必要な情報を周知していくこととしていま す。	D(参考)	無		
3	第3章1 ライフ ステージに 応じて楽 しむ生涯 スポーツ の推進	(2)子どもの スポーツ機会 の充実	②運動部活 動の充実	主な取組内 容	学校部活動という言葉で表記されているもの、 部活動という表記もあります。他に運動部活動 という表記もあります。文脈で使い分けるとい うことあると思いますが、広くこれを一般の方も 目にすること考えると、ある程度、表記 の整理をする必要があると思います。 国のガイドラインでも、学校部活動と地域クラブ 活動というような使い分けをしているようなところ もあります。 特に学校の部活に関わる部分の表記がいくつ かあったので、その辺りを統一していただけた らと思います。	国のガイドラインや県の方針では文化部活動も 含めているため「学校部活動」という表記に整 理し、県推進計画では文化部活動を除いた「運 動部活動」という表記に整理しました。 学校部活動から地域に移行した活動を「地域ク ラブ活動」と表記しています。	A(全部反 映)	有	○ 自主的・自発的な参加により行われる部活 動の趣旨を踏まえながら、運動部活動運営のた めの体制整備や合理的でかつ効率的・効果的な 部活動の推進により、生涯にわたりスポーツに 親しむ基盤づくりを進めます。  (③地域における子どものスポーツ機会の充実) ○ 運動部活動の地域移行に伴う受入体制の整 備を図るため、地域クラブ活動の指導者への資 格取得支援や、地域スポーツ振興に関わる内容 についての知識やスキルの取得のための講習 会の実施により、指導者の確保や資質向上等 に向けた取組を支援します。	○ 自主的・自発的な参加により行われる <b>学校</b> 部活動の趣旨を踏まえながら、運動部活動運営 のための体制整備や合理的でかつ効率的・効果 的な <b>運動部活動</b> の推進により、生涯にわたりス ポーツに親しむ基盤づくりを進めます。  (③地域における子どものスポーツ機会の充実) ○ 運動部活動の <b>地域クラブ活動</b> への移行に伴 う受入体制の整備を図るため、地域クラブ活動 の指導者への資格取得支援や、地域スポーツ振 興に関わる内容についての知識やスキルの取得 のための講習会の実施により、指導者の確保や 資質向上等に向けた取組を支援します。
4	第3章1 ライフ ステージに 応じて楽 しむ生涯 スポーツ の推進	(4)スポーツ に関わる多 様な人材の 確保・育成		現状と課題	現状と課題のいばん上のところに指導者の 人数、クラブのスタッフと書かれていますが、 3,000人ということで日本スポーツ少年団の有 資格者指導者と書かれておりますが、ここにも う一つ、JSPOの公認スポーツ指導者のトータ ル人数、岩手県の資格者を追記すると良いの ではないかと思えます。	ご意見のとおり修正しました。	A(全部反 映)	有	【現状と課題】 ○ 本県には、2023(令和5)年4月現在、市町村 から委嘱を受けた630人余のスポーツ推進委員 があり、スポーツ推進のための事業実施に係る 連絡調整や住民に対するスポーツの実技の指 導等を行っています。また、これまでに創設され た57の総合型クラブのスタッフや日本スポーツ少 年団の有資格指導者3,000人余が、子どもから高 齢者まで、それぞれのライフステージに応じた地 域住民のスポーツ活動をサポートしています。	【現状と課題】 ○ 本県には、2023(令和5)年12月現在、市町 村から委嘱を受けた630人余のスポーツ推進委員 があり、スポーツ推進のための事業実施に係る 連絡調整や住民に対するスポーツの実技の指 導等を行っています。また、これまでに創設され た54の総合型クラブのスタッフや日本スポーツ少 年団 <b>などのJSPO公認</b> 有資格指導者4,000人余 が、子どもから高齢者まで、それぞれのライフ ステージに応じた地域住民のスポーツ活動をサ ポートしています。

**「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表**  
(令和5年第2回審議会)

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況	本文修正の有 無	素案(第2回審議会(11/14)現在)	記載内容(変更後)
5	第3章2 共生社会 型スポーツ の推進	(1)障がい者 スポーツの推 進	②障がい者 がスポーツを 楽しむ環境 の整備	主な取組内 容	「障がい者がスポーツを楽しむ環境の整備」の ところの、公認パラスポーツ指導員の養成研修 に関してですが、PT(理学療法士)に向けたパ ラスポーツ指導者講習会もあるので、医療関係 者という言葉を追記しておくと思います。	ご意見のとおり修正しました。	A(全部反 映)	有	○ 市町村の職員やスポーツ推進委員、総合型 クラブのスタッフ等を対象とした公認パラスポ ーツ指導員の養成研修を実施するなど、地域で障 がい者スポーツを支える人材の養成・確保に取り 組みます。	○ 市町村の職員やスポーツ推進委員、総合型 クラブのスタッフ、医療・福祉関係者等を対象とし た公認パラスポーツ指導員の養成研修を実施す るなど、地域で障がい者スポーツを支える人材の 養成・確保に取り組みます。
6	第3章2 共生社会 型スポーツ の推進	(1)障がい者 スポーツの推 進			表記ですが、「障がい者」という表記と、「パラ」 と、「障がい者スポーツ」、「パラスポーツ」と2つ の使い方があります。表記に関して私も専門で はないのですが、内容的に違いがあるのではし ょうか。	競技スポーツでは「パラスポーツ(パラアスリ ート)」という表記を多く用いています。生涯スポ ーツでは対象が障がい者である場合等で「障が い者スポーツ」という表記を用いています。	F(その 他)	無		
7	第3章2 共生社会 型スポーツ の推進	(3)スポーツ における女性 の活躍推進	②女性がス ポーツを楽し む環境の整 備	主な取組内 容	女性の指導者や多様な有資格者がスポーツ活 動について、前回の計画のところでは養成・確 保が求められているところから、さらに踏 み込んで積極的な活用という表記になっている ところは評価できると思いますが、積極的 な活用のところに、第三期スポーツ基本計画の 方によりますと、40%の女性の役員登用とい う、非常に現状と乖離のある数値が出されて いると思います。 積極的な活用という表記は、踏み込んだと思 いますが、さらにこれを実現化するためには、も う一步踏み込まないといけないかなと思います ので、ご検討いただければと思います。	女性の役員登用については、競技力向上を支 える環境の整備で取り組むこととしており、ス ポーツにおける女性の活躍推進を図ることによ り、女性の役員登用の拡大にもつながっていく と考えております。 また、女性の役員登用数の増加については、 スポーツ振興課、県体協、競技団体の3者に よって実施している競技団体ミーティングや県 体協主催の各種会議等を通して数値目標を含 めて周知していきます。 現在、県体協では、R7年度の役員改選にお いて、女性理事の参画拡大となるよう検討して おり、その実現のためには、県内競技団体の女 性理事を増やすことが求められていることか ら、県競技団体への女性理事登用の促進を 図っているところです。	B(一部反 映)	有		○ アスリートとして活躍した女性等が、将来、指 導者やスポーツ団体の役員として活躍できる環 境づくりを進めます。
					「共生社会型スポーツの推進」の(3)「スポ ーツにおける女性の活躍推進」のところですが、① の「女性のスポーツ参画機会の充実」のところ なのか②の「女性がスポーツを楽しむ環境の整 備」なのか、もしくはもう一つ③の項目が出た 方がよいのか、やはり女性のアスリート、もし くは、アスリートをリタイアした後の引退した後の 活躍の場の設置というようなところで、女性の 役員等での活躍やリーダーの育成とか、活動 の場の設置とか、そのような取組について、も う少しはっきり特出したほうが良いと思います ので、ご検討いただきたいと思います。	女性がスポーツに取り組む環境の整備が競技 団体の競技力向上につながる課題であること から、3(3)の競技力向上を支える環境の整備 への記載としました。 また、意見を踏まえ、2(3)スポーツにおける女 性の活躍推進にも、女性が活躍できる環境作 りについて記載しました。	B(一部反 映)	有		
					「国際的に活躍する競技スポーツの推進」3の ところの一番下のところですが、「そのスポーツ 団体等の女性役員の登用等」の文言がありま したので、こちらを2の「共生社会型スポーツ の推進」の(3)のところに入れた方がよいの ではないかと考えます。		B(一部反 映)	有		

**「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表**  
(令和5年第2回審議会)

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況	本文修 正の有 無	素案(第2回審議会(11/14)現在)	記載内容(変更後)
8	第3章3 国際的に 活躍する 競技ス ポーツの 推進	(2)競技力向 上を支える人 材 の育成	②アスリート のサポート人 材の育成	主な取組内 容	アスリートのサポート人材の育成のところですが、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会等の医療関係団体と連携し、とありますが、ここに、スポーツ栄養士会との連携もあったのではないかなと思いますので、栄養士会の名称も入れて連携の対象にするとよろしいのではないかなと思います。	・ご意見の一部反映し、スポーツ栄養士を追記しました。 ・栄養士会については、現在まで県栄養士会としてスポーツ栄養士の資格取得に係る連携をしていないところであります。今後、県事業におけるスポーツ栄養士の活動について、県栄養士会との情報共有を図りながら、協力体制の構築を進めてまいります。	B(一部反 映)	有	○ 県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会等の医療関係団体と連携し、 <u>スポーツドクター</u> 、 <u>スポーツデンティスト</u> 、 <u>スポーツファーマシスト</u> 等の資格取得を促進するとともに、有資格者の専門的知見を活用し、障がい者を含むアスリート、競技団体等に対し、障害予防、アンチ・ドーピング、スポーツ栄養等に係るサポートに取り組みます。	○ 県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会等の医療関係団体と連携し、 <u>スポーツドクター</u> 、 <u>スポーツデンティスト</u> 、 <u>スポーツファーマシスト</u> 、 <u>スポーツ栄養士</u> 等の資格取得を促進するとともに、有資格者の専門的知見を活用し、障がい者を含むアスリート、競技団体等に対し、障害予防、アンチ・ドーピング、スポーツ栄養等に係るサポートに取り組みます。
9	第3章4 地域を活 性化させ るスポ ーツの推 進	(2)経済の活 性化につな がるスポ ーツの推 進	③スポーツビ ジネスの創 出・拡大	主な取組内 容	「スポーツビジネスの創出・拡大」27ページの下のところですが、県内のトップ・プロスポーツチームをはじめとする各種スポーツ団体と市町村、民間事業者等との連携によるとありますが、もし可能であれば、ここに大学というのも入れてもいいのではないかなと思います。	ご意見のとおり修正しました。	A(全部反 映)	有	○ 国が実施するスポーツ市場の動向調査等の結果を広く県内で共有することにより、県内のトップ・プロスポーツチームをはじめとする各種スポーツ団体等と市町村や民間事業者等との連携による新たなスポーツビジネスの創出を促進します。	○ 国が実施するスポーツ市場の動向調査等の結果を広く県内で共有することにより、県内のトップ・プロスポーツチームをはじめとする各種スポーツ団体、市町村、 <u>大学</u> 等と民間事業者等との連携による新たなスポーツビジネスの創出を促進します。

**「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表(主なもの)**  
**(市町村、関係機関・団体(事業団、障スポ協、いきいき財団、県・市体協、県・市スポーツ少年団、各競技団体、総合型クラブ)**

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への反映 状況	本文修正の有 無	素案(第2回審議会(11/14)現在)	記載内容(変更後)
1	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(5)スポーツを楽しむ環境の整備	①県有スポーツ施設のストックの適正化	主な取組内容	「IoT・AI等の最先端技術の活用等により、スポーツ振興を図るための環境整備を進めます」とありますが、具体的にどのような整備を想定しているのか、例示した方が理解しやすいと思われます。	例示した方がイメージしやすいことから、例示を追加しました。	A(全部反映)	有	○ 県営スポーツ施設におけるIoT・AI等の最先端技術の活用等により、スポーツ振興を図るための環境整備を進めます。	○ 県営スポーツ施設におけるWi-Fi環境の整備等により、IoT・AI等の最先端技術の活用等によるスポーツ振興を図ります。  ※ 掲載箇所を①県有スポーツ施設のストックの適性化から、②地域スポーツ資源の有効活用・利用促進に変更します。
2					①『いわてスポーツプラットフォーム』『レッツ！ぺっこトレ！』などの新表記に加え、カタカナや英語略語などの表記が増えておりますので、解説編を備えていただければわかりやすいと思います。 ② 岩手県スポーツ推進計画の表記も、いわてスポーツ推進計画など“いわて”の使用をご検討いただいても全体の流れに沿うのではありませんか。 その意味から、策定趣旨の“本県出身…”や文章中の“本県では…”などを“いわて出身…”“いわてでは…”と大いに“いわて”をアピールした方がよいと考えます。 ③ 施策の柱の表記は、縦書きに統一された方が見やすいです。	①計画には、用語解説を付記していますので、整理いたします。 ②、③は参考とさせていただきます。	B(一部反映)	有		①については、計画本文の用語解説に付記しました。

「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表(主なもの)  
(県議会 常任委員会)

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況	本文修正 の有無	(素案)	記載内容(変更後)
1	第1章計画策定の考え方	4 スポーツの意義	(5)新型コロナウイルス感染症の影響		<p>・大事なのは、新型コロナやインフルエンザの感染時、一律に規制するのではなくて、感染状況に応じて、必要な感染対策を徹底しながら可能な活動をやっていく必要があります。</p> <p>・感染対策を徹底する中で、可能な活動をやっていくという、この考え方をはっきりさせる必要があります。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、スポーツが、日々の生活から失われたり、制限された経験を経て、スポーツが我々の生活や社会に活力を与えるなど優れた効果を及ぼすことを改めて認識しました。</p> <p>このことから、今後、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等が流行した場合でも、基本的な感染防止対策の徹底、デジタル技術の活用など、様々な工夫を凝らしながら、スポーツイベントや大会を開催するなど、スポーツを通じた取組みを継続していくことが大切であると考えています。</p>	D(参考)	無		
2	第1章計画策定の考え方	5 現状と課題			<p>・「週1回以上のスポーツ実施率」20歳以上で、これは2017年よりも2022年(令和4年)のほうが64.7%でわずかに上昇していますが、小学校5年、中学校2年のレベルは2017年よりも全部低下しています。コロナの影響もあったかもしれませんが、20歳以上が上がっている時に、小学校、中学校の子どもたちがこれだけ上げようとして下がってしまいました。この問題はどのように分析しているのか。</p>	<p>・コロナウイルス感染症の影響によりまして、学校での集まるとの体育の授業がなかなか難しくかったり、あとは家庭においても、なかなか外出する機会がなかったために、それぞれの子どもの体力、運動能力が全国的に下がったものと認識しています。</p> <p>・本県小中学生の総運動時間の状況は、小学校5年、中学校2年の男女とも全国平均を上回る状況にありますが、中学2年男女は令和4年度と比較して低下しています。</p> <p>これは、朝食欠食や睡眠不足、スクリーンタイムの増加などの生活習慣の変化などが要因であると考えており、「運動」「食」「生活」の各習慣を一体的に捉えた取組が重要であると考えています。</p>	その他	無		
3	1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(1)スポーツ参画人口の拡大		現状と課題	<p>・10ページのグラフで、2022年度女性のスポーツ実施率がぐんと上がっているのに、男性が逆にぐんと下がりました。ぜひ分析して頂きたい。</p>	<p>・2022年度のスポーツ実施率について改めて確認したところ、集計誤りによる数値の変動がございましたので、グラフを修正しています。</p> <p>・具体的には、当該年度のスポーツ実施率は、男性が61.1%、女性が69.3%としていましたが、修正後においては、男性が64.0%、女性が65.5%となりました。</p> <p>・2021年度と2022年度を比較して、男性は、バスケットボール、サッカー・フットサルのように、実施割合が減少傾向を示していることに対し、女性は増加傾向にあります。</p> <p>・一方、女性は、スキー・スノーボードや太極拳のように、実施割合が増加傾向を示していることに対し、男性は減少傾向にあります。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、このような傾向が生じたものと考えています。</p>	その他	有		「(図表1)20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率」のグラフを修正しました。
4	1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(3)成人のスポーツ機会の充実	①働く世代のスポーツ参画人口の拡大	主な取組内容	<p>・30代～50代というのは、仕事でも中堅といえますか主力になるので、そういう点でいけば、職場の状況が大きく影響すると思います。</p> <p>逆に、生涯スポーツを考えた時に、こういう方々がしっかりスポーツ、運動をやるのが、もう本当に疲れ切ったりタイアしないで、仕事にも新たな意気込みで取り込めるのではないかと思います。ですが、どういう取組をしようとしているのか。</p>	<p>・県としても、医・科学サポート事業の中で、企業の方に出向いて、健康づくりなどの研修等の講師、もしくは外部講師を派遣して実施しておりますので、それらも含めて成人のスポーツなり、健康づくりの取組を進めていく必要があると考えています。</p>	C(趣旨同一)	無		

**「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表(主なもの)**  
(県議会 常任委員会)

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況	本文修正の有無	(素案)	記載内容(変更後)
5	1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(5)スポーツを楽しむ環境の整備	①県有スポーツ施設のストックの適正化	主な取組内容	・プロスポーツの行われるホームスタジアム等の規格が、それぞれ大幅に高くなってきています。そういった意味からすると、今後、どのように施設を整備していくのか、個々のスポーツ施設のあり方という点で方向性を大きく変換しなければいけない時期にきていると思っております。この件について、今、整備等について考えていると思いますが、どのような形で進めていくのか伺う。	・「個別施設計画」が6年度までの計画となっています。7年度から新たに計画を策定することから、今、県営施設のあり方について検討しています。施設の状況、利用の状況、市町村の施設の状況等も踏まえまして、外部の有識者からご意見をいただきながら、現在、そのあり方を取りまとめているところです。	F(その他)	無		
6	第3章3 国際的に活躍する競技スポーツの推進	(3)競技力向上を支える環境の整備	②競技団体の組織強化	主な取組内容	・スポーツインテグリティの関係で、スポーツに対して指導者の行き過ぎた指導が行われているという現状があります。それに対して、スポーツという観点で、どのように改善を進め、どのような事業を展開しようとしているのか伺う。 ・前の計画と変わって、新しいこの計画の中でどのような形で位置づけ、どのような実効性のある対策を講じるのか伺う。 ・競技団体は高校の先生方がかなりボランティアで献身的に運営に携わって下さり、有難い限りですが、競技スポーツ団体によって体制の強い弱いがかなり見受けられますので、フォローアップ等をしていながらより良い実効性が高まるようにしていただき、今回の計画から達成されますように思います。	・スポーツインテグリティにつきまして、体育協会と連携をして、インテグリティやコンプライアンスの研修会を対象範囲を広げ実施していくことや、設置されている「相談窓口」を活用し適正なサポートに引き続き取り組むこととしています。 また、各競技団体がガバナンスコードの自己点検などにより、健全な組織運営の取組を進める中で、実効性を高めていくこととしています。 ・今後、学校部活動から地域クラブ活動への移行が進むことも鑑み、適切な指導者資格の取得を進めるとともに、インテグリティに係る研修を対象範囲を広げ実施していくことで、実効性を高めていくこととしています。	A(全部反映)	有	○ スポーツ・インテグリティ(誠実性・健全性・高潔性)を確保するため、県体協と連携し、競技団体事務局長会議等を通じて、(公財)日本スポーツ協会等が表明した「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」の実現に向け、スポーツの「場」での、暴力行為、暴言等の防止やアンチ・ドーピングの徹底を図るとともに、関係法規や倫理規定等を遵守した健全な組織運営の取組を促進します。  ○ 県体協と連携し、競技団体の強化責任者を対象とする研修を実施することにより、選手強化事業におけるハラスメント、暴力等の防止に向けた取組を促進します。また、PDCAサイクルによる自己点検評価の実施による選手強化費の効果的かつ効率的な活用に向けて支援し、競技団体が実施する事業の活性化を図ります。	○ スポーツ・インテグリティを確保するため、県体協と連携し、 <b>JSPO</b> 等が表明した「 <b>NPO!スポハラ</b> 」の実現に向け、 <b>競技団体、指導者をはじめ、アスリートや保護者等を対象とする研修などにより、スポーツ現場での、暴力行為、暴言、差別等の未然防止やアンチ・ドーピングの徹底を図ります。</b> <b>また、問題事案が発生した場合は、県体協の「相談窓口」の活用などにより、関係団体との連携を密にしながらかつ適正なサポートを図ります。</b>  ○ 県体協と連携し、競技団体における <b>関係法規や倫理規定等の遵守やスポーツ団体がガバナンスコード※5の自己説明・公表などによる健全な組織運営の取組を促進します。</b> また、PDCAサイクルでの点検評価の実施などによる <b>競技団体のマネジメント能力の向上</b> を支援します。

**「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表  
(教育委員会協議会)**

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への反映状況	本文修正の有無	素案	記載内容(変更後)
1	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(2)子どものスポーツ機会の充実	③地域における子どものスポーツ機会の充実	主な取組内容	学校統合により、スクールバスを利用している子供たちが増えたこともあり、子供のスポーツ機会の充実は、大切であると感じています。苦手な子ども学校で少しでも運動することによって楽しさに目覚めることがありますので、小さい時期からスポーツに関わる機会があるのは大変よいと感じています。生涯スポーツの面でも、運動する楽しさを子ども大人も忘れずに、将来設計を考えながら楽しみながらスポーツができるという取り組みとして続いてほしいと感じています。	小中学校の統合によってスクールバスで通学する子供さんが増えまして、運動する機会がなかなか得られないというはよく耳にします。家庭学校と連携した取り組みを進めていかなければいけないと思いますので、いただいたご意見も踏まえて取組を進めて参りたいと考えております。	C(趣旨同一)	無		
2	第3章3 国際的に活躍する競技スポーツの推進	(3)競技力向上を支える環境の整備	②競技団体の組織強化	主な取組内容	スポーツを広く楽しむということを網羅した計画、という認識でよろしいでしょうか。競技という観点で取り組むと、勝敗が重視されてしまっ、そこからまたいろんな問題が起きる可能性もあります。	施策の大きな柱の一つとして、競技力向上の部分も入っている計画になっております。勝利至上主義というような形で偏る可能性もございますので、クリーンでフェアなスポーツの実現のための取組や、ハラスメント、暴力行為等の未然防止に関して取り組むこととしております。	C(趣旨同一)	無		
3	第3章3 国際的に活躍する競技スポーツの推進	(3)競技力向上を支える環境の整備	②競技団体の組織強化	主な取組内容	スポーツにおける暴力行為など、実際何かあったときにどう対応となるか見えてくると保護者の視点としては安心です。指導者側の視点だと、各スポーツ団体の対応が早すぎて、すごいスピードで処分が出たりなど、手続きや引継はどうなっているのかというような両極の心配があります。いろいろなことで問題になりやすい世の中なので、被害者側、指導者側どちらの視点でも過不足なく皆さんが、安心してスポーツに取り組める、指導に取り組めるような形にしていきたいと思ひます。	スポーツにおける暴力行為については決してやっではないけなことです、まず未然に防止するという取り組みが大切だとは考えております。また、体協に相談窓口を設けておりますので、それを活用して対応できるようにしたいと思います。いただいたご意見を踏まえて、具体的に起こった時の対応も含めて検討させていただきたいと思ひます。	A(全部反映)	有	○ スポーツ・インテグリティ(誠実性・健全性・高潔性)を確保するため、県体協と連携し、競技団体事務局長会議等を通じて、(公財)日本スポーツ協会等が表明した「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」の実現に向け、スポーツの「場」での、暴力行為、暴言等の防止やアンチ・ドーピングの徹底を図るとともに、関係法規や倫理規定等を遵守した健全な組織運営の取組を促進します。	○ スポーツ・インテグリティを確保するため、県体協と連携し、JSPPO等が表明した「NO! スポハラ」の実現に向け、 <b>競技団体、指導者をはじめ、アスリートや保護者等を対象とする研修などにより、スポーツ現場での、暴力行為、暴言、差別等の未然防止やアンチ・ドーピングの徹底を図ります。</b> <b>また、問題事案が発生した場合は、県体協の「相談窓口」の活用などにより、関係団体との連携を密にしながら迅速かつ適正なサポートを図ります。</b>
									○ 県体協と連携し、競技団体の強化責任者を対象とする研修を実施することにより、選手強化事業におけるハラスメント、暴力等の防止に向けた取組を促進します。また、PDCAサイクルによる自己点検評価の実施による選手強化費の効果的かつ効率的な活用に向けて支援し、競技団体が実施する事業の活性化を図ります。	○ 県体協と連携し、競技団体における <b>関係法規や倫理規定等の遵守</b> や <b>スポーツ団体ガバナンスコード※5の自己説明・公表などによる健全な組織運営</b> の取組を促進します。また、PDCAサイクルでの点検評価の実施などによる <b>競技団体のマネジメント能力の向上</b> を支援します。

**「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表  
(パブリック・コメント)**

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への反映状況	本文修正の有無
1	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(2)子どものスポーツ機会の充実	②運動部活動の充実	主な取組内容	・学校の運動部等部活の一般指導者への推進については、指導する人は競技等の経験者が多いと思いますが、成長時期にある子供達を指導する体制として保健的なこと、メンタル的な事、広く思いやれる体制であって欲しいと思います。	学校部活動における部活動指導員の配置については、平成30年の導入開始から、配置数を着実に増やしているところです。その任用に際し、部活動指導員に対して、学校教育について理解し、適切な指導を行うための研修を行うこととしています。 学校部活動が、生徒にとって望ましい活動・環境の姿となるよう、部活動指導員を含め、継続して指導者に対する研修に取り組んでいくこととしています。	C(趣旨同一)	無
2	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(4)スポーツに関わる多様な人材の確保・育成	①地域スポーツを支える人材の育成	主な取組内容	○生涯スポーツの普及のため、サークルリーダーの発掘・育成をしてほしい。 ・生涯スポーツの普及活動をする種目別協会が捉えるべき重要課題です。	生涯スポーツの振興については、競技団体や総合型地域スポーツクラブなどの地域スポーツ団体を対象として、指導者の資格取得支援や研修会等を実施しています。 また、岩手県広域スポーツセンターのホームページ内の掲示板において、イベントの告知や、指導者(スポーツリーダー)やボランティアのマッチングなどを行っています。 今後においても、これらの取組を継続して実施していくことにより、生涯スポーツの振興を進めてまいります。	C(趣旨同一)	無
3	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(5)スポーツを楽しむ環境の整備	①県有スポーツ施設のストックの適正化 ②地域スポーツ資源の有効活用・利用促進	主な取組内容	○生涯スポーツ活動の普及のため、バウンドテニスの活動環境と必要な用具の整備をしてほしい。 ・会場(体育館などですが、一人・一時間 100 円程度で借りられる会場)と用具(人工芝コートで1サークル当たり2コート位)の確保や、既存グループの若返りと継続を考え、老朽化した危険な用具(人工芝コート)の更新をお願いしたい。	県営スポーツ施設については、各施設ごとに利用料金を設定しているところであり、利用者の利便性向上を図るため、岩手県文化・スポーツ施設予約システムから各施設の空き状況確認や予約を可能としているところです(一部直接申込が必要な場合があります)。 なお、県営スポーツ施設では、県が主催する競技会等で使用する用具等の整備を優先的に行っているところであり、利用者の安全確保のため老朽化した用具等の更新を計画的に実施することとしています。	C(趣旨同一)	無
4	第3章2 共生社会型スポーツの推進	(1)障がい者スポーツ等の推進	②障がい者がスポーツを楽しむ環境の整備	主な取組内容	地区の共生スポーツ推進として、障がいのある人も参加できる様相談しますが、運営スタッフが少ないため、障がいのある人の補助(助勢)が必要となると運営が難しい面があります。(ボランティアスタッフを揃える必要有り)	障がい者のスポーツ環境整備については、障がいのある方もない方も身近な地域においてスポーツに親しむことが大切だと考えており、パラスポーツ指導員の育成等に取り組んでいます。 また、県としてもイベントを開催する際には、スポーツボランティアを募りイベントを実施するところであり、引き続き、だれもがスポーツを楽しめる環境の整備に取り組んでまいります。	C(趣旨同一)	無



**「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表  
(総合教育会議)**

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への反映状況	本文修正の有無	素案	記載内容(変更後)
1	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(1)スポーツ参画人口の拡大	①スポーツを楽しむ機会の充実	主な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>概要版の中では、スポーツを楽しむ機会の充実とだけ書かれてあります。スポーツをすることは、必ずしもスポーツクラブや団体に所属したものに限らないことや個人レベルで健康増進・体力増進のために体を動かすこともスポーツであるという視点も大事ではないかと感じました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概要版には、新規若しくは拡充されている取組を中心に主な取組を記載しています。</li> <li>「スポーツを楽しむ機会の充実」の取組については、計画に次のとおり記載しています。「県民誰もが興味・関心、適性等に応じて参加できるスポーツ・レクリエーションの情報発信等により、スポーツを楽しむ機会の充実を図ります。」</li> <li>いただいた御意見を参考に、個人レベルでスポーツを楽しむ視点も念頭に県民のスポーツを楽しむ機会の充実に向けて取組みます。</li> </ul>	C(趣旨同一)	無		
2	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(1)スポーツ参画人口の拡大	②総合型地域スポーツクラブの充実	主な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合型地域スポーツクラブの創設・育成について、住民の生涯スポーツ或いは部活動の地域移行等の受け皿としても大いに期待されている存在であり、今後の本県スポーツの受け皿・担い手として、創設・育成に支援を行う必要があるのではないかと思います。</li> <li>場合によっては、既存のスポーツ団体等との連携協力を越えて、例えば既存のスポーツ団体等との一体化とか一元化という方向を模索してみることもあってはいいのではないかと捉えており、ぜひこれを受けとめていただければと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合型地域スポーツクラブは、運動部活動の地域移行の受け皿も含め、地域スポーツの担い手としての役割を果たしており、県では、資格取得支援や研修会の実施、総合型クラブや市町村へのクラブアドバイザー等の派遣による指導・助言などクラブの創設・育成支援に取り組んでいます。</li> <li>併せて、運動部活動の地域移行を推進するにあたり、各地域における受入体制の整備が必要とされておりますが、地域の実情に応じて、受入体制を整備していくことが必要であると考えます。</li> </ul>	D(参考)	無		
3	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(2)子どものスポーツ機会の充実	①学校体育の充実	主な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な取組の中でも、より良い運動習慣、望ましい食生活や規則正しい生活習慣の形成を目指す60(ロクマル)プラスプロジェクトに期待しております。</li> <li>児童生徒の身近にいる大人がスポーツや健康な心身に関心を深めることで、60(ロクマル)プラスプロジェクトは、子供たちにより効果をもたらすし、心身の健康は学力の向上にも繋がるものと期待しております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本県の体力合計点の状況は、全国平均を上回っている状況ではありますが、朝食欠食や睡眠不足、スクリーンタイムの増加などの生活習慣の変化などにより、「運動」「食」「生活」の各習慣を一体的に捉えた取組が重要であると認識しています。引き続き、60(ロクマル)プラスプロジェクト推進事業により、各習慣の一体的な形成に向けた取組が活性化されるよう取り組んでいきます。</li> </ul>	C(趣旨同一)	無		
4	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(2)子どものスポーツ機会の充実	②運動部活動の充実	主な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化に伴って、学校の中にある団体競技の部活動が単独では大会等に参加できない状況が生じており、学校の枠を超えた合同チームが作られ大会に出場する学校が増えてきています。生徒の視点に立てば好ましいことではありますが、教員の視点に立てば、合同の練習場所への定期的な移動など、顧問としての負担が増えます。各学校において、生徒数と部活動の数のアンバランスを改善しようとしても、統廃合を容易に進めることができないという状況もあるという側面もあります。</li> <li>こういうことも念頭に、地域クラブ活動への移行を速やかに進めるということも、県として後押しをぜひ進めてもらいたいということも肝要だと実感しているところでございます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっており、一部の学校では拠点校方式による合同部活動が行われていますが、指導する教職員の負担が増えていることは認識しています。</li> <li>生徒や教職員等にとって望ましいスポーツ環境となるよう、部活動の適正な運営等や新たな地域クラブ活動の整備に取り組んでいきます。</li> </ul>	D(参考)	無		

**「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表  
(総合教育会議)**

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への反映状況	本文修正の有無	素案	記載内容(変更後)
5	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(2)子どものスポーツ機会の充実	③地域における子どものスポーツ機会の充実	主な取組内容	・運動部活動の地域クラブ活動への移行について、多くの方々のご尽力している状況だと思いますが、そのための市町村協議会づくりがまだ進んでいないところもあると聞いております。ここはやはり県の後押しが必要なものではないかと思えます。	・県及び県教育委員会では、令和6年1月22日に「岩手県における学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針」を策定しており、その中で、市町村における協議会等の設置による体制構築について示しています。 ・今後、県内市町村を対象とした相談会等において、協議会未設置市町村への助言・指導を行うなど、運動部活動の地域移行に向けた支援に取り組んでいきます。	C(趣旨同一)	無		
6	第3章2 共生社会型スポーツの推進	(5)スポーツを楽しむ環境の整備	②地域スポーツ資源の有効活用・利用促進	主な取組内容	・学校開放、これは具体的には社会教育法に規定されている学校施設の利用の拡大ということになると思うのですが、これを大いに活用されてしかるべきではないかと思えます。 ・活動の場をどう確保するかに留まらず、世代間交流や或いは障害者の皆様との交流、それから楽しむスポーツやニュースポーツ、そういったものの普及に大いに貢献できるのではと考えており、学校開放の広がり公共施設の見直しで現在苦勞されている、特に小規模市町村などにとっては、大いに支援になる可能性があると思えますので期待しています。	・学校施設開放については、市町村立学校等の一部の学校において実施されている状況です。 ・令和6年1月に策定した「岩手県における学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方に関する方針」において、地域クラブの活動場所として、学校施設を活用できるよう取組を示しています。 ・今後とも、県民の文化・スポーツ活動に資するよう、学校教育に支障のない範囲において、学校施設を活用できるよう取り組んでいきます。	D(参考)	無		
7	第3章3 国際的に活躍する競技スポーツの推進	(1)アスリートの発掘・育成	①次世代アスリートの発掘・育成	主な取組内容	・いわてスーパーキッズ発掘育成事業によって素質を見いだされ、様々な種目において、国内外で活躍している選手の姿を見るたびに、私たちは大いに励まされ、この事業が大きな成果を上げているのだと実感していますが、成長したスーパーキッズが中学卒業後、高校を選択する時点で、より高いレベルでの活躍の場を求め、県外の高校を選択すると耳にすることもありますので、高校までは、県内で競技力を高められる環境があればと思います。	・県教育委員会では、全国大会で優秀な成績を収めている学校をスポーツ特別強化指定校として指定し、本県の高校スポーツの競技力向上を推進していますが、全ての競技種目を指定できないのが現状です。 ・子どもたちの夢を実現できる環境が増えるよう、指導方法等の研修等により、指導者の質の向上に取り組んでいきます。	D(参考)	無		
8	第3章3 国際的に活躍する競技スポーツの推進	(2)競技力向上を支える人材の育成	①指導者の資質向上	主な取組内容	・スポーツにはお金と人材と環境整備が必要です。今あるものを有効に活用し、デジタル技術を使い、幅広い分野の方と連携しながら、少子化・人口減少であっても活躍できるアスリートを育てること。県民の心身の健康のために、県全体を元気にする取組を継続して欲しいと思えます。	・県出身アスリートの活躍により、県民が喜びと感動を味わい、県全体を元気になることに寄与しています。 ・いただいた御意見を参考に、環境整備について継続した取組を図ります。	D(参考)	無		

**「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表  
(総合教育会議)**

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への反映状況	本文修正の有無	素案	記載内容(変更後)
9	第3章3 国際的に活躍する競技スポーツの推進	(3)競技力向上を支える環境の整備	②競技団体の組織強化	主な取組内容	<p>・部活動が地域に移っていくことで今まで以上にトラブル・問題といったものも生じてくるのではないかと思います。仮に不適正な指導等があって、各競技団体が判断して指導者に対して処分を行うというようなケースがあったとしても適正手続をきちんと踏んでいるか不安になるような事案も見聞きするところですので、スポーツをする側も指導する側も双方の立場共に安心して取り組めるように、何かあったときの窓口、それぞれを支援する体制が必要だと思っております。</p>	<p>・スポーツインテグリティにつきまして、体育協会と連携をしてコンプライアンスの研修会、相談窓口を活用して、引き続き取り組むこととしています。</p> <p>・いただいた御意見を参考に、県体協と連携し、双方が安心して取り組んでいけるようサポートを図ります。</p>	A(全部反映)	有	<p>○ スポーツ・インテグリティ(誠実性・健全性・高潔性)を確保するため、県体協と連携し、競技団体事務局長会議等を通じて、(公財)日本スポーツ協会等が表明した「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」の実現に向け、スポーツの「場」での、暴力行為、暴言等の防止やアンチ・ドーピングの徹底を図るとともに、関係法規や倫理規定等を遵守した健全な組織運営の取組を促進します。</p> <p>○ 県体協と連携し、競技団体の強化責任者を対象とする研修を実施することにより、選手強化事業におけるハラスメント、暴力等の防止に向けた取組を促進します。また、PDCAサイクルによる自己点検評価の実施による選手強化費の効果的かつ効率的な活用に向けて支援し、競技団体が実施する事業の活性化を図ります。</p>	<p>○ スポーツ・インテグリティを確保するため、県体協と連携し、JSPQ等が表明した「NO! スポハラ」の実現に向け、<b>競技団体、指導者をはじめ、アスリートや保護者等を対象とする研修などにより、スポーツ現場での、暴力行為、暴言、差別等の未然防止やアンチ・ドーピングの徹底を図ります。</b></p> <p><b>また、問題事案が発生した場合は、県体協の「相談窓口」の活用などにより、関係団体との連携を密にしながら迅速かつ適正なサポートを図ります。</b></p> <p>○ 県体協と連携し、競技団体における<b>関係法規や倫理規定等の遵守やスポーツ団体ガバナンスコード※5の自己説明・公表などによる健全な組織運営の取組を促進します。</b>また、PDCAサイクルでの点検評価の実施などによる<b>競技団体のマネジメント能力の向上を支援します。</b></p>
10	第3章3 国際的に活躍する競技スポーツの推進	(3)競技力向上を支える環境の整備	②競技団体の組織強化	主な取組内容	<p>・スポーツの推進にも、人権を尊重する意識を持つことを基本に置いてほしいと考えています。これは教育でもスポーツ分野でも、どんな場面でも生きていく上で大切なことです。色々な問題が起きたとき、この人権を尊重していない、守られて思っていないことが背景にあることが多くあると思います。計画を推進するにあっても、このこともしっかり取り組み入れてほしいです。</p>	<p>・人権尊重については、スポーツの分野においても重要な視点であると考えます。</p> <p>・いただいた御意見を参考に、様々な研修等を通じて、人権の尊重についても取組みを促進します。</p>	A(全部反映)	有	回答番号9に同じ	回答番号9に同じ

**「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表**  
**(教育施策推進のための子どもからの意見(教育委員会アンケート調査))**

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への反映状況	本文修正の有無
1	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(2)子どものスポーツ機会の充実	③地域における子どものスポーツ機会の充実	主な取組内容	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>もっと他のチームとの交流の機会が増えたらいいと思う</li> <li>学校で、1つのチームがいいと思う！</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>もっと他校と一緒に練習する機会をつくと、学べたり交流できるからいいと思う</li> <li>休日の部活動も、顧問の先生主導で行って欲しい。親が主導になる部活動にこれからなる予定なら、行きたくない。親が怖い。</li> <li>部活動自体がなくなってしまうかもしれないことが心配しています。出来ればなくさないで欲しいです。</li> </ul> <p>【高等学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今は少子高齢化で部活動に所属する子どもたちが減少しています。そのため、部員の募集停止をせざるえない状況になっています。そこで、伝統ある部活の存続や入りたかった部活がなくなって夢を失ってしまう子が出ないような取り組みをすることが必要だと考えます。</li> <li>人数が少なくなってきて、大会に出るにも人数を集めないといけない状態なので、担い手不足を改善する</li> <li>小規模中学校で選択できる部活の種類が少なかったのが残念だったので、選択肢が増えるとよいと思う。</li> </ul>	<p>○岩手県では、少子化の中でも、将来にわたり、みなさんがスポーツ・芸術活動に親しむことができるよう、学校、保護者、地域や関係団体の皆さんが目指す目標となる「岩手県における学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針」を策定することとしています。</p> <p>○ これからも、県では、地域の事情やニーズに応じた多様な活動ができるよう、学校部活動の適正な運営や地域クラブ活動への円滑な移行に向けて取り組んでいきます。</p>	C(趣旨同一)	無
2	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(5)スポーツを楽しむ環境の整備	②地域スポーツ資源の有効活用・利用促進	主な取組内容	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サッカーをもっといい場所でやりたいです。理由は将来サッカー選手になりたいからです。いい場所とはチップのある人工芝照明設備があって、4面コートがある場所です。</li> <li>岩手県には、スケートボードをする場所が、少ないので場所をつくってほしいです。ハーフパイプがほしいです。理由は、他の県よりスケートボードをする場所と、アイテムが少ないことから、他の県の人と、レベルに大きな差が出ています。パークがあることによって岩手県からスケートボードを好きになる人が増え、いつかは、オリンピック選手が出ることもあると思います。私達は、オリンピックを目標にして頑張っています。</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸にパラスポーツ専用の練習する施設を作って欲しい。(特にフェンシングや陸上競技など)</li> <li>みんな使えるバスケットコートがあったらいいと思う</li> </ul>	<p>○現在、県営スポーツ施設は9つあり、県営運動公園内に照明設備がある人工芝のサッカー場が1面、バスケットコートがある体育館が2つあり、こちらは利用料金が必要になりますが、どなたでも使える施設です。</p> <p>○県営以外の施設も含めて、県内のスポーツ施設は、「いわてスポーツコミッション」のサイト(<a href="https://www.iwate-sc.jp/">https://www.iwate-sc.jp/</a>)で紹介していますので、ご覧ください</p>	C(趣旨同一)	無
3	第3章3 国際的に活躍する競技スポーツの推進	(1)アスリートの発掘・育成	①次世代アスリートの発掘・育成	主な取組内容	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>僕の将来の夢は野球選手なので野球のできる環境があつていいと思います。</li> <li>プロバスケット選手になりたいです。だから、高い技術を持っている人に教えてもらいたいです。</li> <li>サッカーが好きでいつも練習しているので日本代表になってワールドカップで優勝したいです。</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が、大きすぎるかもしれないけど将来の夢である「プロ野球選手」になるために、どんなことをすればよいのでしょうか？</li> <li>今やっているスポーツを、将来教えたり、すごい選手になってたらめっちゃ嬉しいです！！</li> <li>自分のやりたいと思ってやっているのは、当たり前のことではないので今コーチに教えてもらっていることを1つ1つ大切に実技したいなあと思いました</li> </ul> <p>【高等学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事とスポーツを両立することができる、デュアルキャリアというものに関心を持っている。将来、それを実現するために、勉強を頑張つつ、部活動にも一生懸命取り組んでいる。</li> <li>プロ選手が教えに来て欲しい</li> </ul>	<p>○県では、これまでの県営野球場を閉場し、R5年4月にオープンした「きたぎんボールパーク」で、プロ野球の試合や高校野球の県大会、他県の大学を呼んで大会を開催したりと、野球の関心が高まるような取組を行っています。</p> <p>また、各市町村には市町村営の球場があるところもあるので、そのような施設を利用し野球に取り組むことも可能です。</p> <p>○また、県内のトップ・プロスポーツチーム(岩手ビッグブルズ、いわてグルージャ盛岡、日本製鉄釜石シーウェイブス)と連携し、学校や地域でスポーツ教室や健康づくり教室等の事業を実施しています。</p> <p>各教室では、参加する方のレベルに合わせたメニューを考えていただき、スポーツの楽しさを感じてもらうとともに競技レベルの向上にも繋がるよう工夫して取り組んでいます。実施場所の選定は、各チームにお任せしていますが、県内全域での実施となるよう調整をしているところです。</p> <p>○さらに、県では、スポーツ少年団などのコーチからの指導に加えて、オリンピックを目指したいなど、皆さんの夢を実現する手助けとして、「いわてスーパーキッズ発掘・育成事業」などで、県内の小学生を対象に、様々な競技の体験会や、栄養講習などを開講して、選手の皆さんの技術向上を図られるような取組を行っています。</p> <p>○また、県では、仕事とスポーツの両立ができたり、競技に専念できるように、アスリートを対象とした就職支援も行っています。</p>	C(趣旨同一)	無

「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表  
(素案再検討)

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への反映状況	本文修正の有無	素案	記載内容(変更後)
1	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(4)スポーツに関わる多様な人材の確保・育成		取組の方向性		・スポーツボランティアを増やす取組について記載する必要がある。	A(全部反映)	有	○スポーツボランティアへの参加を促進し、活動の場を提供するために、広域スポーツセンターや関係機関・団体と連携し、大会情報などを発信していきます。	○スポーツボランティアへの参加を促進し、活動の場を提供するとともに、大会情報を発信するなど、 <b>ボランティア活動を行うための環境整備</b> に取り組みます。
2	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(4)スポーツに関わる多様な人材の確保・育成	②スポーツボランティアの養成の促進	主な取組内容					○トップ・プロスポーツチームをはじめとした関係団体等と連携した研修会等の開催により、スポーツボランティアの養成を図ります。  ○岩手県広域スポーツセンターや市町村、総合型クラブ、専門学校等と連携し、各種研修会等で養成したスポーツボランティアの登録を進め、登録者への大会情報やスポーツボランティア情報を発信するなど、引き続きスポーツボランティア活動を推進します。	○トップ・プロスポーツチームをはじめとした関係団体等と連携した研修会の開催等により、スポーツボランティアの養成を図ります。  ○広域スポーツセンターや市町村、総合型クラブ、専門学校等と連携し、各種研修会等で養成したスポーツボランティアの登録を進め、登録者への大会情報やスポーツボランティア情報を発信するなど、引き続きスポーツボランティア活動を推進します。  <b>○ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催、日本スポーツマスターズ2022岩手大会など大規模大会に参加したスポーツボランティアの方々が、今後の大会やイベント等でのボランティア活動に参加するための環境整備に取り組みます。</b>
2	第3章1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	(4)スポーツに関わる多様な人材の確保・育成	④スポーツ功労者の表彰の実施	主な取組内容		スポーツ振興に寄与した指導者や団体に限らず、スポーツの環境整備等支える人材等への顕彰についても記載する必要がある。	A(全部反映)	有	○岩手県文化スポーツ表彰により、スポーツの普及・奨励に尽力し、スポーツの振興に寄与した指導者や団体を顕彰します。	○岩手県文化スポーツ表彰により、スポーツの普及・奨励に尽力し、スポーツの振興に寄与した指導者や団体など、 <b>スポーツ関係者を幅広く顕彰</b> します。
3	第3章2 共生社会型スポーツの推進	(3)スポーツにおける女性の活躍推進	①女性のスポーツ参画機会の充実	主な取組内容		女性アスリートの医・科学に基づく活躍支援の取組について、記載する必要がある。			○ 県体協、一般社団法人岩手県医師会（県医師会）、一般社団法人岩手県歯科医師会（県歯科医師会）、一般社団法人岩手県薬剤師会（県薬剤師会）等の関係団体と連携し、女性アスリートや指導者、保護者等を対象とした研修を実施し、女性アスリート等の健康問題に対する正しい知識の習得と理解促進の取組を進めます。また、スポーツ医・科学的な知見を有する専門家に相談できる機会を提供するなど、幅広く女性アスリート等の活動を支援します。	○ 県体協、一般社団法人岩手県医師会（県医師会）、一般社団法人岩手県歯科医師会（県歯科医師会）、一般社団法人岩手県薬剤師会（県薬剤師会）等の関係団体と連携し、女性アスリートや指導者、保護者等を対象とした研修会を実施し、女性アスリート等の健康問題に対する正しい知識の習得と理解促進の取組を進めます。また、 <b>県体協の「女性アスリート相談窓口」などのスポーツ医・科学的な知見を有する専門家に相談できる機会を提供するとともに、岩手医科大学附属病院の「女性アスリートサポート外来」の利用促進を図る</b> など、幅広く女性アスリート等の活動を支援します。
4	第3章4 地域を活性化させるスポーツの推進	(1)地域の活力につながるスポーツの推進	①スポーツコミッションやトップ・プロスポーツチームと連携した地域活性化の推進	主な取組内容		・単に大会や合宿誘致を進めるだけでなく、例えば「教育旅行」という観点も取り入れ、「付加価値」をつけることによって、本県の強みを生かした誘致活動を進める必要がある。	A(全部反映)	有	○スポーツ大会や合宿の誘致等をマネジメントする人材を育成するなど受入態勢を整えるほか、首都圏において合宿相談会を実施するなど、県内各地において大会・合宿の誘致を進め、各種競技の国内拠点を形成します。	○スポーツ大会や合宿の誘致等をマネジメントする人材を育成するなど受入態勢を整えるほか、 <b>本県の豊かな自然や世界遺産、スポーツアクティビティなど魅力ある地域資源に加え、震災学習なども紹介しながら、首都圏での合宿相談会</b> を実施するなど、県内各地において大会・合宿の誘致を <b>効果的に</b> 進め、各種競技の国内拠点を形成します。

「第2期岩手県スポーツ推進計画」素案 意見検討結果一覧表  
(素案再検討)

回答番号	施策の柱	施策展開の方向	主な施策	細区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への反映 状況	本文修正の有 無	素案	記載内容(変更後)
5	第3章4 地域を活性化させるスポーツの推進	(2)経済の活性化につながるスポーツの推進	②トップ・プロスポーツと連携した市場開拓への支援	主な取組内容		・トップ・プロスポーツチームと県との取組がwin-winになるように、(交流体験)イベントなどをやってもらえるような取組を展開する必要がある。	A(全部反映)	有	○トップ・プロスポーツチームの公式戦等の機会を活用し、関係機関・団体と連携のもと、サポーターや観客に向けた観光情報の発信や県産農林水産物をはじめとする県産品のPRに取り組みます。	○ 県内トップ・プロスポーツチームの公式戦等の機会を活用し、関係機関・団体と連携のもと、 <u>競技スポーツの魅力発信やファンのすそ野の拡大に取り組むとともに、サポーターや観客に向けた観光情報の発信や県産農林水産物をはじめとする県産品のPRに取り組みなど、地域経済の活性化に向けた取組を推進します。</u>